

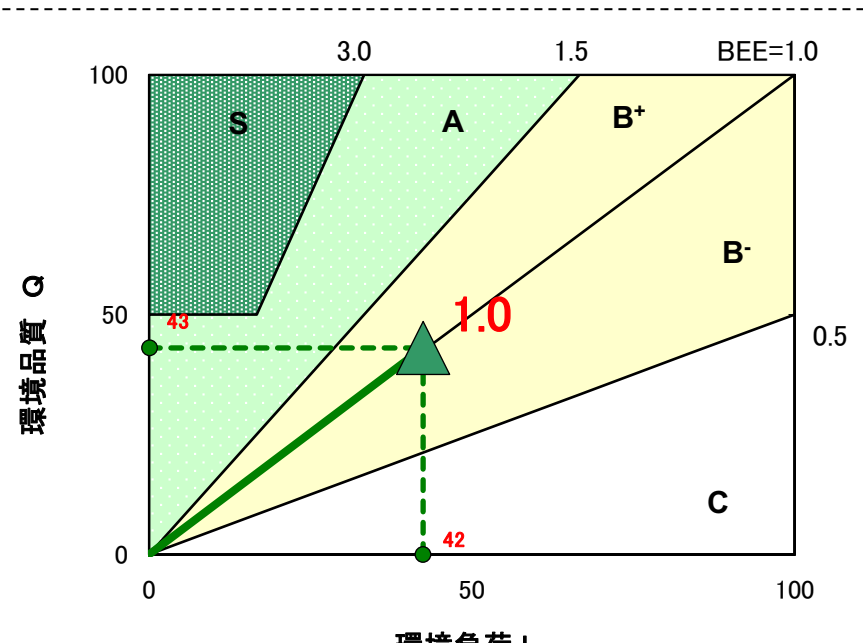
CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

1-1 建物概要			1-2 外観
建物名称	ミフネテラス	階数	地上5階
建設地	熊本県上益城郡御船町大字木倉字	構造	S造
用途地域等	2種住居	平均居住人員	0 人
省エネ:地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集会所,ホテル,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年10月 予定	評価の実施日	2025年5月26日
敷地面積	4,780 m ²	作成者	株式会社前原設計事務所
建築面積	656 m ²	確認日	2025年5月26日
延床面積	2,320 m ²	確認者	株式会社前原設計事務所

2 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

★★★★★



■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)

☆☆☆☆☆

BEE = 1.0

■ BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

排出率

85%

3 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

熊本県重点評価キャラクター

76

評価点

■ 熊本県重点評価基準

重点事項	評価点	判定値(評価点)	ランク表示
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	83.6	100点以上	★★★★★
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	65.0	80点以上100点未満	★★★★
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	75.0	60点以上80点未満	★★★
【重点事項4】 循環型社会の実現	73.2	40点以上60点未満	★★
		40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

Page : 1/6

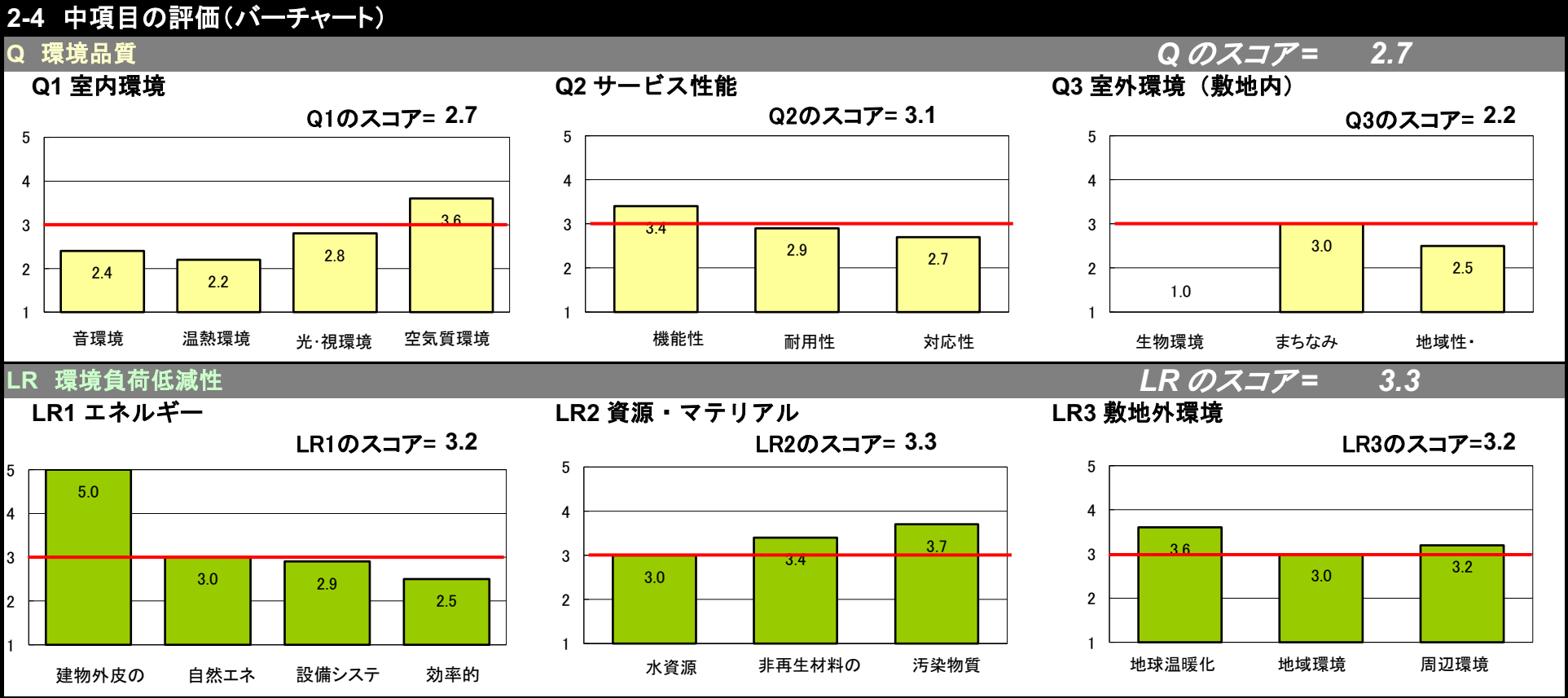
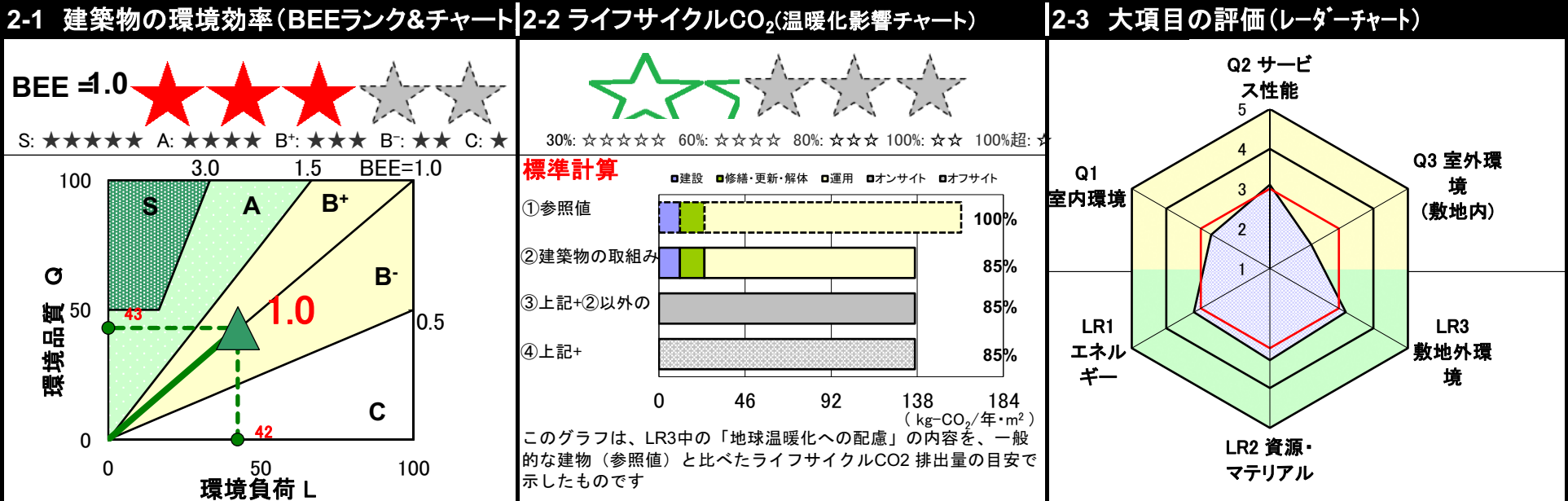
Sheet : 1/5

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ミフネテラス	階数	地上5階
建設地	熊本県上益城郡御船町大字木倉字	構造	S造
用途地域等	2種住居	平均居住人員	0 人
省エネ・地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集会所,ホテル,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年10月 予定	評価の実施日	2025年5月26日
敷地面積	4,780 m ²	作成者	株式会社前原設計事務所
建築面積	656 m ²	確認日	2025年5月26日
延床面積	2,320 m ²	確認者	株式会社前原設計事務所



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版 ミフネテラス		
スコアシート		実施設計段階
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄
Q 建築物の環境品質		
Q1 室内環境		
1 音環境		
1.1 室内騒音レベル		
1.2 遮音		
1 開口部遮音性能		
2 界壁遮音性能		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		
1.3 吸音		
2 温熱環境		
2.1 室温制御		
1 室温		
2 外皮性能		
3 ゾーン別制御性		パッケージエアコン
2.2 湿度制御		
2.3 空調方式		
3 光・視環境		
3.1 昼光利用		
1 昼光率		
2 方位別開口		
3 昼光利用設備		
3.2 グレア対策		
1 昼光制御		
3.3 照度		
3.4 照明制御		
4 空気質環境		
4.1 発生源対策		
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆建材の採用
4.2 換気		
1 換気量		
2 自然換気性能		1/10以上
3 取り入れ外気への配慮		
4.3 運用管理		
1 CO ₂ の監視		
2 喫煙の制御		喫煙室の設置
Q2 サービス性能		
1 機能性		
1.1 機能性・使いやすさ		
1 広さ・収納性		
2 高度情報通信設備対応		UTP-CAT6採用
3 バリアフリー計画		
1.2 心理性・快適性		
1 広さ感・景観		天井高さ:2.5m
2 リフレッシュスペース		
3 内装計画		機能性が明確、間接照明の計画、パースにより検討
1.3 維持管理		
1 維持管理に配慮した設計		
2 維持管理用機能の確保		
2 耐用性・信頼性		
2.1 耐震・免震・制震・制振		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		
2 免震・制震・制振性能		
2.2 部品・部材の耐用年数		
1 躯体材料の耐用年数		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途2種以上にB以上を使用Eは不使用
6 主要設備機器の更新必要間隔		
2.4 信頼性		
1 空調・換気設備		
2 給排水・衛生設備		
3 電気設備		
4 機械・配管支持方法		
5 通信・情報設備		

評価点が3超の項目 水色セル欄に数値やコメントを記入

⇒Q1～Q3シートやLR1～LR3シートにおける採点の根拠に倣って、要旨を記入してください

3 対応性・更新性			2.7	0.30	2.9	1.00	2.7
3.1 空間のゆとり			4.0	0.10	2.8	0.50	
1	階高のゆとり		-	-	2.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	【集会所】0.1≦壁長さ比率:0.24 <0.3【ホテル】0.1≦壁長さ比率:0.17	4.0	1.00	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			2.6	0.90	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		1.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m :0.78	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEI _m]: 0.82	2.9	0.50	-	-	2.9
4 効率的運用			2.5	0.20	-	-	2.5
集合住宅以外の評価			2.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		2.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.60	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		再生クラッシュラン	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		LGS下地	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	吹付硬質ウレタンフォーム(ノンフロン)	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出率=85%	3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐車、駐輪スペースの確保、導入路の配慮	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.50	-	-	
2	振動		3.0	0.50	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	・光害対策ガイドラインチェックリストの過半を満たす、広告物照明な	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

熊本県重点評価結果 スコアシート ※手動入力は不要		実施設計段階
建物名称	ミフネテラス	

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

熊本県重点評価結果				総合評価点		76
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				83.6	0.40	33.44
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.08			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.03			
Q1-3.2.1	昼光制御	2.3	0.03			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	5.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	2.9	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				65	0.20	13.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	3.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				73.2	0.20	14.64
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	2.8	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数

■ 環境関連の配慮事項

ミフネテラス

印刷:モノクロ
設定済み

・適宜、箇条書き等で記入してください。

・キーボード操作:改行の際は【Alt】キー&【Enter】キーで次の行に進みます。

計画上の配慮事項		※必ず、何らかのコメントを記入してください。
総合		・前面道路への圧迫感に配慮し、建物は道路境界線から十分な離隔距離を確保して配置した。 ・周囲との景観の調和やまちなみへの潤いを生み出すために、新館北側(前面道路側)には植栽を計画した。
Q1 室内環境		・F☆☆☆☆建材を使用。 ・開口部にはカーテンやロールスクリーンを設け、グレア対策を行った。
Q2 サービス性能		・階高にゆとりをもたせ、建物自由度を高めた。 ・設備系統はメンテナンスを考慮した計画とした。
Q3 室外環境 (敷地内)		・敷地内に植栽を計画し、暑熱環境に配慮した。
LR1 エネルギー		・窓ガラスには複層ガラスを採用し、断熱性を高めた。 ・LED照明の採用により省エネルギー性向上に努めた。
LR2 資源・マテリアル		・ノンフロン断熱材を使用する計画とした。
LR3 敷地外環境		・ライフサイクルCO2排出率を抑制し、地球温暖化に配慮した計画とした。
その他		特になし